

数と計算①

第1学年

100までのかずのけいさん

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

十の位を1が10集まったまとまりとしてとらえられない。

問題：みかんを24こもっています。3こもらうと、なんこになりますか。



24、25、26、27って数えればわかるのに…。

同じ位を計算することの意味がわかっていない。

24+3=27になるのはわかるけど、どうしてそうなるの？



単元の概要

目標

何十を10のいくつか分とみて、計算の仕方を考えることができる。

内容

- 何十たす何十の計算
- 何十ひく何十の計算
- 何十何たす何の計算
- 何十何ひく何の計算

※太字は次ページに詳細を掲載

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	分数×分数	→ 分数×分数の意味を理解して計算することができない。
第5学年	分数のたし算	→ 通分をすることなど、異分母の加法や減法の意味が理解できない。
	通分	→ 公倍数を用いて通分ができるが、その意味が理解できない。
第4学年	分数	→ 単位分数と関連付けて真分数、仮分数の意味や大きさが理解できない。
第3学年	1けたをかけるかけ算の筆算	→ 筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができない。
第2学年	10000までの数	→ 十進位取り記数法について、位ごとのまとまりとして正しく理解できない。
第1学年	100までのかずのけいさん	→ 十の位を1が10集まったまとまりとしてとらえられない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

10本まとめた数え棒とばらばらの数え棒をそれぞれ複数用意し、数え棒で問題場面を表す活動

活動のねらい▶ ・何十を10のまとまりとして考えることができるようにする。

ここが
ポイント

10本まとめた数え棒やばらばらの数え棒を用意し、問題場数を数え棒を使って表現させる中で、10本まとめた数え棒を使った方がわかりやすいことに気付かせ、何十を10のまとまりとして考えることができるようにする。

期待される児童の姿



ばらばらに24本並べるよりも、わかりやすいね。

24個だから、10の束が2ついるね。

何十を10のまとまりとして考えて、問題場数を数え棒で表すことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明する活動

活動のねらい▶ ・10のまとまりを意識しながら計算の意味を考えられるようにする。

ここが
ポイント

数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明させることで、10のまとまりと、1のまとまりを分けて考えるイメージをもって計算の意味を考え、理解を深められるようにする。

期待される児童の姿



そうか、だから $24+3$ は2はそのまま、4と3をたすのか！

24は10が2つと1が4つ。そこに3をたします。10の束は2つのままで、7本合わせるから27になります。

10のまとまりを意識しながら、何十のたし算やひき算の意味を考えることができる。